

第4回池多小学校のあり方協議会 議事概要

開催日：令和6年10月24日（木）

開催時間：19時00分～19時40分

開催場所：池多公民館

出席者：林会長、中山副会長、奥野委員、田上（和信）委員、藤井委員、
山崎委員、栗林委員、高山委員、田上（和彦）委員、岡崎委員、
小谷委員

事務局：学校再編推進課長 山崎 悟
学校再編推進課長代理 高岡 太郎
学校再編推進課計画係主査 春田 圭介
学校再編推進課計画係主事 大関 光貴

《開会》

【司会】 第4回池多小学校のあり方協議会を開催する。
本日、都合により委員2名が欠席している。
会長に議事の進行をお願いする。
（会長 挨拶）

《協議会の進め方について》

【会長】 前回の協議会の中で、いつ頃、池多小学校の再編の方向性を
まとめていくのかといった意見があった。そこで、今後の議
論の進め方について、事前に事務局と相談して考えてきたた
め、事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 それでは、資料11にて今後の進め方の案について説明させ
ていただく。本日が第4回協議会となり、次回第5回協議会
は11月14日に古沢小学校のあり方協議会と合同で開催す
る学校見学会となる。その後、12月中旬頃をめどに第6回
を開催し、統合するのかもしれないのか、する場合にはどの校区
と話し合うのか、協議会の方向性をある程度固めてはどうか

と考えている。その上で、来年1月下旬頃に協議会主体の地区説明会を開催し、委員の方からこの協議会の活動内容や方針を地域住民に報告いただき、地域住民の意見を伺う場として考えている。2月下旬をめどに第7回を開催し、協議会としての方向性を最終決定するという流れで案を作成した。

【会長】 この流れについて、質問はあるか。

【委員】 第6回で、統合する場合、どの校区と統合について話し合うかという内容になっているが、基本的には池多・古沢で老田のほうへ行こうという話で進んでおり、そんなに話し合うこともないのではないか。

【学校再編推進課長】 次回、老田小学校の見学会があるため、その内容を踏まえて、改めてどこと統合に向けて話し合うのかということを確認させていただきたい。

【委員】 今日の協議会で、統合するか、する場合はどの校区と統合するかというところまである程度方向性を決めた上で、老田小学校を見学会をし、第6回に最終確認をするという流れでもよいか。

【学校再編推進課長】 最終確認は、地区説明会終了後の第7回という想定で作成しているが、本日の協議会である程度の方向性を決めておくことで、議論はスムーズに進むものと思われる。

【会長】 第6回協議会で協議を予定している地区説明会については、どのようなことを話し合うのか。

【学校再編推進課長】 地区説明会の話し合いについては、地区説明会当日の流れや、司会進行や説明者を誰が行うかを決めていただきたい。

【会長】 地区説明会の内容としては、第6回までの協議会の内容や、協議会の方向性を説明するというところでよいか。

【学校再編推進課長】 そのような内容を想定している。

【会長】 ほかに質問あるか。

【委員】 老田地区での議論の状況はどうか。

【学校再編推進課長】 老田は8月29日にあり方協議会を設立された。第1回は協

議会の設立が主な目的であり、具体的な統合に関する議論は次回以降となる。

【委員】 池多地区では、先ほど話があったように老田小学校で3校が統合するという方向性が決まりつつある状況だが、老田地区の議論の結果によっては、振出しに戻ることもあり状況を注視していきたい。

【学校再編推進課長】 第1回老田小学校のあり方協議会では、統合に反対されるという意見が出ているとは聞いていない。

【委員】 これからどんどん地域へ深く入っていくと、どういう意見が出てくるかは分からないため、慎重に議論を進めていきたい。

【会長】 個人的な意見かもしれないが、老田の自治振興会長と話をした際には、老田も町内によっては人口がどんどん減っており、同じような危機感を持っていると話していた。

【学校再編推進課長】 決定ではないが、老田地区では、11月には2回目の協議会を開催する予定である。第2回では、各団体から統合についての意見を聞く予定としているため、報告させていただく。

【委員】 この協議会としてすべきことは、今年度中に統合するかしないかという意味決定と、する場合はどこと話し合いをするかという話を決めること。来年度以降は、老田地区・古沢地区とも議論をして、統合の条件面で合わないという可能性も出てくるが、なるべく頓挫しないような形で進めていきたい。

【委員】 学童保育については、いつの時点で話をすることとなるか。

【学校再編推進課長】 学童保育について、以前は、学童は1校区に1つという原則があったが、統合する地区に受入れの収容力がないというケースが出てきたことから、仮に統合したとしても、統合前に実施していた地域で、運営協議会の方が継続する意思があり、なおかつ地元で利用を続けたいという要望もあれば継続するという選択肢も取ることができる。

【委員】 認められるのは分かるが、その話をいつのタイミングで、話をすればいいか。

【学校再編推進課長】 学童保育については、統合が決定した後の統合準備協議会で話をすることを予定しているが、現時点でもその方向性について話し合うことはできる。

《池多小学校の学校再編の方向性について》

【会長】 これまで3回にわたり協議会を開催してきたが、前回の協議会では古沢地区の委員の方の意見も聞くことができた。そこで、本日の協議会では、池多小学校の学校再編の方向性について、委員一人ひとりの意見を聞きたい。

【委員】 統合を大至急お願いしたい。

【委員】 子どもの人数を考えたらせざるを得ないと思う。私も子どもと関わる仕事をしているので、子どもが過ごす集団の人数はある程度必要ではないかと感じている。複式学級にもいい部分はあると思っているが、子どもたちの学びという点を考えると、統合は早いほうがいい。

また、この池多の皆さんの築き上げてこられた特色や、いい部分がいろんな学校にアピールされて、遠足の場所としてリngo体験できるとかラベンダー摘みができるとかハクチョウに餌をやるといった池多のいい部分が、何か子どもの実体験の場として生かされてほしいという願いはある。

【委員】 なるべく早く統合したい。池多の場合は、地域の方々にも統合について理解いただいております、このあり方協議会も、もっと早いペースで進められないのかと言っている。学校の統合については早く進めていけばいいし、学校の跡地の利活用については、池多小学校あり方協議会の方向性が決まった後、小さい委員会でもいいので、話し合いをしていけば、活発な議論ができていいのではないかと考えている。

【委員】 150周年記念が終わってすぐ統合の話というのもあるが、地域の人間としたら学校を何とか残したいという思いもあるが、保護者としてはやはり今の子どもたちの現状を見ている

と、もっと人数が多いほうがやれることも多いと感じる。不登校気味になっている子でも、クラス替えが出来たりと、対応の仕方いろいろあるのではないかなと思えば、やはりもっと人数の多い学校生活を送らせてあげたい。

【委員】 私も早く統合したほうがいいと思う。先ほども話があったように、地域の方は跡地をどうするかということが気にかかる。その辺の考え方をどう地区説明会まできちんと意思統一するかというのが重要な課題だと感じる。

【委員】 今統合するとなると、最短でも令和9年度と聞いているが、できるだけ早く、統合できるようにお願いしたい。令和8年でもいいくらいで、ゆっくりし過ぎというのが私の正直な思い。

【委員】 自分の子どもが、小学校を卒業してもう10年ほどになるが、当時から子どもの数は50人ほどしかおらず、運動会などの行事を見ている、少ない人数でかわいそうにと思って見ていた。早くどこかと一緒になればいいのにと思っていたくらいで、統合には、大賛成で速やかに進めていただきたい。

【委員】 私の孫も池多小学校へ行っているが、池多は学校へ行っている子どもの家庭数が少なく、統合は早くしてほしい。また跡地をどうするか、池多のコミュニティーがどうなるかということをしごく心配していた。昨今この池多のコミュニティーが全然動いていない。まずは小学校の統合を進めて、池多のコミュニティーのことを考えていかないと、本当に池多は寂しくなってしまう。

【委員】 やっぱり大人数のところに行ったほうが子どもたちも元気に活発に行動できるような気がする。次、中学校に行くと大人数になるのだから、こういう少人数じゃなく、100人程度の子どもたちがみんなで一緒にやれるようにしたほうがいい。

【委員】 早ければ早いほうがいい。何度か学校に足を運ばせてもらい、今の学校は、自分たちが受けた学校の授業とは全然違って、

子どもたちの意見を聞いてそこから授業を進めていくという形になっており、人数がいないと意見が出ない。そうなるとう結局、決まった意見でしか話が進まないというのは非常に子どもたちにとって、もったいないと授業を見ながら思った。やはり様々な意見を聞きながら、育った子どもたちのほうが、これからの多様性と言われている時代に順応できるんじゃないかと思う。本当に早く、先ほども言われたように9年度と言わずに8年度でもいいくらいではないかと学校の授業を見ているとそう感じる。

【会長】

最後に私からも意見を述べさせていただく。以前、学校の再編について地域で説明会があったときには、かなり反対の意見が出てきていたことから池多の人は反対意見が多いのかと思っていたが、以降そういう意見はほとんど出てこない。それと、数年後には、児童数が20人程度になる時期が来ると聞き、さすがにかわいそうだと思った。正直、時代の流れもあり、仕方がない、やはり統合しかないと考えている。

委員からは概ね池多小学校の統合については賛成の意見をいただいたため、本協議会としては、今後統合について話を進めていくこととする。

また、先ほど小学校の跡地利用の話も出たが、以前の講演会で浜黒崎地区では、地域活性化協議会を立上げ、跡地のことや地域の活性化について話をしているとのことだったが、何か1つ行事をやったら、それでもう活性化協議会の仕事が終わってしまうようなものでは意味がない。もしそういう場をつくるのであれば、少人数でもいいが、どういうメンバーでどういう目標を立ててどういう池多にしたいのか、その辺をはっきりさせないといけない。先ほど委員から話があったように、まずは統合の話をしっかり煮詰め、池多らしい統合の仕方を古沢地区や老田地区と一緒に進めて、それから跡地のことを考えていけばいいのではないか。

次に、次回の老田小学校の見学会について説明を求める。

《老田小学校見学会について》

【学校再編推進課長】 （老田小学校見学会について説明）

《閉会》

【会長】 学校見学会で何か質問はあるか。なければ、本日の議事は以上となる。最後に、事務局より連絡事項はあるか。

【司会】 次回の老田小学校の見学会に出席いただける委員の方には、11月の初め頃に改めて集合場所やスケジュール等の詳細についてご連絡する。また、見学会終了後の第6回協議会については、12月の中旬頃に日程調整し、改めて案内させていただく。

【会長】 これで第4回池多小学校のあり方協議会を終了する。

—— 了 ——